
ジャングルキング (仮)

ルインレイン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ジャングルキング（仮）

【Nコード】

N7405X

【作者名】

ルインレイン

【あらすじ】

余りの強さに忌み嫌う死の森に捨てられた1人の男の話。

主人公が森からでて無双しまくる話です。仲間もチートさせる予定です。ギャグ多め。明るくいきます。

始まりの森（前書き）

初めて書きました（笑）めっちゃ読みにくいです。ページのことも全然わかりませんでした。すいません。

いろいろ訂正していくと思います。

主人公最強物でめっちゃ都合主義です。

始まりの森

俺はクラウド、ちょっとばかし（謙遜）腕っぷしに自信がある。
突然で悪いが俺はこれから世界をとりに行こうと思ってる。

じゃ、しっかりついてきな。

（13年前）

僕は捨てられた：両親に死の森に捨てられた。自分に流れる余りの魔力の大きさを忌み子として。

目を覚ますと森の中だった、自分が周りから嫌われているのは気付いていたから捨てられたとわかるまでに時間はそうかからなかった。集落からおいだされる。そろほどに僕は強すぎた。

仕方なく森をさ迷う、『クケケ、旨そうな人間の子供発見、今日はついてるな』と突然ゴブリンの群れが襲い掛かってくる。

とっさに全力で魔力を解放しゴブリンに放つ、ドッカーン、30匹ほど消しとんだかな

『ヒ、な、なんだこの餓鬼』リーダーっぽい奴が叫んでる。

『消されたくなかったら僕に従え』

あれから10年後、俺はこの広大な死の森の大部分を掌握した。従えた部族はゴブリン、コボルト、バトルウルフ、ブラックベアー、そしてこの前オーガたちをボコボコにして従えさせた。残すは神狼とドラゴンくらいかな、今日はついにドラゴンに挑む。

森の最奥にたどり着くと『我に何の用か』ものすごいプレッシ

ヤーが言葉と共にのしかかる。俺は言った『ちよっとお前と闘おう
と思ってね』その瞬間ドラゴンがブレスを吐いた、こっちも魔力を
全力で解放、強化魔術を発動してかわしつつ『お返した、ライトニ
ング・ストーム』数百の稲妻を放つ、しかし強靱な鱗をもつドラゴ
ンには傷ひとつつかない。『ちっ、やるなあ』空中から爪が来るが
これを『アイスシールド』空気中に氷の盾を作りガード、しかし背
後から衝撃、『ぐはっ』おもいきり尻尾でぶっとばされた。くら
ったと気付いたと同時に回復魔法を発動し傷を治す。

『やるねえ、流石に古の魔獣と言われるだけあるな。』俺は言う
『そなたこそ何者だ？人間ばなれした魔力、お主は人間か？』

『俺はクラウド、多分人間さ、生憎とこの魔力のせいで人間か
ら追い出されたけどね。』

そう言っただけ俺は魔力を右手に集める『テンペスター』とてつもない
エネルギーを持ったレーザーをドラゴンに放つ、ドラゴンのブレス
とぶつかり合う。

ドラゴン、恐ろしい威力の攻撃がぶつかりあい、衝撃が駆け抜ける、
『ふっ今のは囷だ』

俺はドラゴンの目の前に飛びあがる。そして右足に全魔力集中
『くええ、リーンフォースキック』

40メートルをどあるドラゴンがぶっ飛んだ。

始まりの森（後書き）

こうした方がいいとか文句とか批評とかお願いします。多分いいとことかないんで（笑）

仲間

ドラゴンの名前はレフィスと言うらしい、あの激闘のあと俺達は友達になった…えっ意味解んないって戦った者にしか解んない友情ってやつかな。

余裕そうにみえたかもしれないが魔力の八割近く削られたんだよね、レフィスの方はまだ5割くらい残ってたらしい。まあ火力勝ちってところかな。

『なあ、クラウドは森からでないのか』レフィスが聞いてくる。あっちなみにレフィスは人化ができるらしいちよっと強さは落ちるそうだけど。

『そろそろ出ようかと思ってる。レフィスと戦ったし。後は神狼かな』

『彼女とも戦うつもりなのか？』

『ああ、そのつもりだけどって、彼女！？』俺は驚く。神狼は雌だったのか。『彼女は余り戦うのが好きではない…取り敢えず呼ぶぞ』レフィスは森全体に魔力を放つ、やっぱり魔力の量じゃ勝てないなあ。

『なんだい、レフィス』突然巨大な白い狼が現れる。

レフィスの言った通り彼女、名前はシルヴィアらしい、は余り戦うのが好きではないらしい。というかただの面倒な事が嫌いなだけみたいだ。めっちゃフレンドリーな人？（彼女も今は人化してる）で

『人間の町興味あったんだよね』
と言ってあっさりついてくることになった。

こうして俺ら3人？は森を出た。

仲間（後書き）

次は設定が多くなるかも…

街（前書き）

取り敢えず毎回主人公を無双させようかな（笑）まだ確定はしてません。

街

ハ―イ、こちらクラウド、トアルの街に到着しました。音速並の速さで走ってきたから1時間もかかってないです。

『まずは宿探さないかね』

『美味しい食べ物があるところね』

シルヴィアはグルメらしい。俺なんか魔獣焼いて食ってたけどね。

『ところでお主は金はあるのか？』

レフィスが尋ねてきた。

『……………よし！まずはお金だ！』

こうしてお金を稼ごうと思ったけどトアルの街は小さすぎてギルドも無いらしい。

『お腹空いたな』シルヴィアからプレッシャーがかかってくる。ちよ魔力がほとばしってるぞ。落ち着け。

取り敢えず道を歩いてると

『おいおい、俺様の服に汚れが付いてしまったじゃねえか？どうしてくれんの？』

見るからに人相のわるいごろつき達が小さな子供にからんでいる。

よっしゃ！金ずる発見！俺は前にでる。

『おいおい、大の男が子供虐めて楽しいか？器のちいさな奴だなあ』

おもいつきり挑発する

『あ？お前だれだ？ぶっとばすぞ？』

よっしゃ釣れた。ごろつきが拳を振り上げ殴りかかってくる。

『ばーか』俺はあっさりその拳をかわし手刀を首筋に叩きこむ。そして相手が崩れ落ちないように空間魔法で位置を固定。そして

『アタタタタタ』全身を殴りまくる。もちろん相手の意識は飛んでるので手加減して。

『アタタタタタアタタタタタ』

あっ財布あった。殴りながら財布を探してたのさ。空間魔法を解除しごろつきが崩れ落ちる。

『つまらないことをした。勝利とて虚しい。』

テキトリーなセリフをはきその場を飛んできたおひねりもしっかり貰いながら去る。

『おおー、めっちゃ金入ってるやん、悪いことしてる奴は違うね』

『お主も悪よのう』

レフィスが笑いながら言う

『これでいい宿に泊まれるね』

シルヴィアの機嫌も良くなったようだ。

街（後書き）

読んでくれてありがとうございます。

勢力図（前書き）

すみません。今回は設定だけになってしまいました。

勢力図

宿屋に書いて、いろいろ情報を集めたところ、この世界の勢力図は、ガンダール帝国、オーブ共和国、ソロエア連邦に別れているらしい。

ガンダール帝国とソロエア連邦は人間しか基本的におらず。亜人や獣人は迫害されているらしい。お互いに領土を拡張しようという戦争が始まってもおかしくない状態らしい。

オーブ共和国は人間、亜人、獣人が共存している。小さな国だが帝国め連邦も一度に2つも相手にするのは苦しいらしく。上手く中立の立場にいるようだ。因みにいま俺のいるトアルの街はオーブである。ネコミミ店員さんめっちゃ可愛い。今は食堂で3人で飯をたべている。

『先ずある程度金を稼がないとな』

『やっぱ首都のオーバに行く？美味しい食べ物も多そうだし』

シルヴィアは食べ物にしか興味ないのか？

『お待ちどうさま、ブタジエンの丸焼きですね。』

あと、オーバは明日から4年に一度の武道大会の申し込みが始まるから賑やかだと思うよ』

ネコミミさんが教えてくれた。

大会↓優勝↓金、俺。

大会↓優勝↓金↓ご飯、シルヴィア。

大会↓強い奴と闘える。レフィス。レフィスは意外と戦闘狂だった。

武道大会？

ルンルンルン。首都オーバに到着しました。早速大会参加の申し込みをしに行きます。

『えーと、大会申し込みの方たちですか？個人戦と団体戦などちらで？』

うん、キツネミミのお姉さんもわるくない。

『はい。えーと、どうしょ？』

『我が個人戦にでるからお主らは団体戦にでるとよい』

レフィスはやっぱり戦闘狂だ。

『では、レフィス様が個人戦でクラウド様とシルヴィア様が団体戦で登録しますね。頑張ってください』

今俺は個人戦の予選をみている。一般枠は8人で国やギルドからの推薦が8人でトーナメントだそうだ。

一般枠五十人の八グループにわけて残った1人がトーナメントに進める。

次はレフィスのグループだ。

『始め』

開始の合図が始まる。十秒後、残っていたのはレフィスと獣人の男だけだった。

説明するとレフィスがちぎっては投げ、ちぎっては投げをくりかえしただけだ。

『お前が一番ましそうだから残した』

うわ、レフィス、スイッチ入ってるよ。

『うおー』

獣人が突進してくる。なかなか早い。あくまで一般人基準だが。

パシッ、レフィスが人差し指でその突進をうことめる。

『おもしろくない、こんなものか』

レフィスが少し不機嫌になったようだ。

『ヒッ』

あーあ、怯えちゃってるよ。

『ストレス解消するか、当てないから安心しろ』

サンダーストーム、アロットオブファイア、マッシブタイフーン』

レフィスの奴ムチャクチャな魔法を発動した。

相手は気絶してしまったけど…いいのかな、これ。

こうしてレフィスのトーナメント進出が決まった。

武道大会？

トーナメント一回戦

オーブ騎士団長VSレフィス

観客せきは静まりかえっている。

一般人には速過ぎて闘いがみえないからだ。

『フハハ、やるなあお主』『そっちこそ』

声と2人のぶつかり合う音だけがきこえる。

俺には見えるんだけどね騎士団長はなかなか強い。レフィスが何も魔法を使っていないとはいえ互角に戦っている。

キン。ガン。

レフィスの拳と団長の剣がぶつかる。

『奥義、時雨千尖穿閃』

かなりのスピードの突きと斬撃がレフィスを襲う。

『くっ、奥義、ドラゴン烈火拳』

ってそれおもしろいパンチうちまくってるだけじゃん。

しかもちゃっかりドラゴンいうてる。気付かれないと思うけど。

バシバシバシバシ

『くっこれでも決まらぬか、ならばオーブ剣術最終奥義はっ

天斬虎葬』

速さと力を兼ね備えたかなりの攻撃だ。しかし

『その剣じゃ虎は狩れても竜はかれぬぞ』

パシッ。

レフィスが両手でしっかり剣を白刃どりにしていた。上手いこと
言いやがって。

そして右膝を団長に叩きこむ。

ゆっくりと団長は崩れおちた。

レフィス一回戦突破。

武道大会？（後書き）

読んでくれてありがとうございます。
少しでも楽しんでもくれたら嬉しいです。

作者が書きながら一番楽しんでもるかも（笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7405x/>

ジャングルキング（仮）

2011年10月22日23時02分発行